

哲学Ⅰ

[担当者] 袴田 渉
 [開講期] 1期
 [授業形態] 講義 [単位] 2
 [科目ナンバリング] 110A0-1234-o2

●本授業の概要：

本講義は、今日を生きる私たちの世界観・人間観にも深い影響を及ぼす古代西洋哲学の歴史を知るとともに、古代を生きた人びとが「世界」や「自己」を問い、考えてきたその仕方を、具体的なテキストの言葉を通して学ぶ。

●到達目標：

古代哲学の歴史の流れを理解する。
 哲学者たちの考える仕方にならない、自分で物事を考えることができる。

●成績評価の基準：

授業への取り組み度 30%
 期末レポート 70%

●留意事項：

●実務経験の授業への活用方法：

●授業予定一覧：

- 1 インTRODクダクシヨウ
 - 2 哲学の始まり (1)：ミレトスの哲学者たち
 - 3 哲学の始まり (2)：ピユタゴラス
 - 4 哲学の始まり (3)：ヘラクレイトス
 - 5 「ある」ということ：パルメニデス
 - 6 多元論 (1)：エンペドクレス、アナクサゴラス
 - 7 多元論 (2)：デモクリトス
 - 8 ソフィストたち (1)：プロタゴラス
 - 9 ソフィストたち (2)：ゴルギアス
 - 10 愛知者：ソクラテス
 - 11 イデア論 (1)：ソクラテスとプラトン
 - 12 イデア論 (2)：プラトン
 - 13 知の分節と体系 (1)：プラトンとアリストテレス
 - 14 知の分節と体系 (2)：アリストテレス
 - 15 「自然と一致して生きる」：ストア学派
- 期末レポート

●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

授業で学んだことを書きとめておき、興味を持った点や疑問点について参考書などで調べ、自分の関心を深める。

【必携書（教科書販売）】

【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

<必携書>

毎回の授業で資料を配布する。

<参考書>

『西洋哲学史－古代から中世へ』、熊野純彦、岩波新書
 『岩波哲学・思想事典』、廣松渉 [他編]、岩波書店

哲学Ⅱ

[担当者] 崎川 修
 [開講期] 2期
 [授業形態] 講義 [単位] 2
 [科目ナンバリング] 110A0-1234-o2

●本授業の概要：

現代を生きる私たち人間にとって、哲学はどのような意味と役割を持ちうるのだろうか。本講義では「哲学」という思考のスタイルの特徴と、その方法を学びながら、19世紀後半から20世紀の哲学者たちの向き合った「世界」「自己」「身体」「欲望」「他者」「言葉」といった問題について考察する。たんに哲学史的な知識の集積に終わらない、現実と対話する真の哲学的思考の確立を目指したい。

●到達目標：

1. 哲学的な思考のスタイルを理解し、自らが現実「問い」を投げかけることができるようになる。
2. 受講者が日常生活の中に哲学的な問題を発見し、レポートを通じてその問いを明確に表現し、思考を通じた言語的応答を実践することができるようになる。

●成績評価の基準：

授業態度、リアクションペーパー：40%（到達目標1）
 期末レポート：60%（到達目標2）

●留意事項：

レポートにおいてネットやその他文献からの無断流用が認められた場合には、単位を与えないので注意すること。
 オフィスアワー：授業中に指示する。

●実務経験の授業への活用方法：

●授業予定一覧：

- 1 導入：対話としての哲学
 - 2 「世界」に出会う①存在の驚き
 - 3 「世界」に出会う②現実と虚構
 - 4 「自己」への問い①関係としての自己
 - 5 「自己」への問い②意識としての自己
 - 6 「身体」への眼差し①「いのち」としての自己
 - 7 「身体」への眼差し②「からだ」としての自己
 - 8 「欲望」を見つめる①「快」と「苦」のあいだ
 - 9 「欲望」を見つめる②「無意識」の深みへ
 - 10 「他者」に向き合う①「ところ」という謎
 - 11 「他者」に向き合う②「すがた」の倫理
 - 12 「言葉」を生きる①意味から行為へ
 - 13 「言葉」を生きる②聴取と表現
 - 14 「対話」のゆくえ～沈黙と語り
 15. まとめ
- 期末試験（レポート）

●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

（予習）配布するプリントに目を通しておくこと。

（復習）講義の中で取り扱った問いや、リアクションペーパーに記述した自分の考えを振り返ってまとめ、そこでの疑問点について考察を深めて、レポートの準備を進めておくこと。

【必携書（教科書販売）】

【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

<参考書等>

参考書は講義内で紹介する。
 随時プリントを配布する。

倫理学 I

[担当者] 崎川 修
 [開講期] 1期
 [授業形態] 講義 [単位] 2
 [科目ナンバリング] 110B0-2340-o2

●本授業の概要：

私たち人間は互いの人格を認め合い、また自己の人格を引き受けて生きる存在である。しかし「一人格である」ということは、つねにそれぞれの人生に与えられた「課題」であって、それは交わりの中で形成され、成熟していくものだといえる。本講義では「人格論」の視点から倫理学の根本にある「生き方」の問題を考察し、かけがえのない自己の人格性の形成について探求する。

●到達目標：

1. 具体的な人格形成の過程について知識を得ると同時に、その根底に発見される倫理的、哲学的概念としての「人格」についての理解を深める。
2. 実存的な倫理思想や文学作品から、人格形成の問題を読み取り、自己の生き方の課題へと結びつけて考察することができるようになる。

●成績評価の基準：

授業態度、リアクションペーパー 40%
 期末レポート 60%

●留意事項：

レポートにおいてネットや文献からの無断流用が認められた場合は、単位を与えないので注意すること。
 オフィスアワー：授業中に指示する。

●実務経験の授業への活用方法：

●授業予定一覧：

- 1 導入：「人格論」としての倫理学
 - 2 人格とは何か
 - 3 交わりと人格形成
 - 4 知性と情緒
 - 5 行為と欲求
 - 6 意志の自由
 - 7 孤独と愛
 - 8 キルケゴールに学ぶ ①美的な生
 - 9 キルケゴールに学ぶ ②倫理的な生
 - 10 キルケゴールに学ぶ ③宗教的な生
 - 11 ニーチェに学ぶ ①道徳とルサンチマン
 - 12 ニーチェに学ぶ ②ニヒリズムの問題
 - 13 ドストエフスキーに学ぶ ①罪と罰
 - 14 ドストエフスキーに学ぶ ②愛と再生
 - 15 希望としての人格
- 期末試験（レポート）

●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

配布するプリント資料に目を通しておくこと。

【必携書（教科書販売）】

【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

<参考書等>
 随時講義内で紹介する。
 プリント資料を配布する。

倫理学 II

[担当者] 袴田 渉
 [開講期] 2期
 [授業形態] 講義 [単位] 2
 [科目ナンバリング] 110B0-1234-o2

●本授業の概要：

本講義は、古代ギリシアから中世キリスト教に至るまでに生み出された、「徳」、「幸福」、「愛」などの倫理学の基礎的な諸概念を、それらの言葉の歴史とともに学び、いわば概念の身元をたどろうとする。そうすることで、私たち人間どうしが共に生きる日常において、欠くことのできない「倫理なるもの」への理解を深め、その今日における意義を考える。

●到達目標：

倫理学の基礎的な概念と学説を理解し、それらを説明することができる。倫理的な問いを自ら抱え、その問いについて自分で考え説明することができる。

●成績評価の基準：

授業への取り組み度 30%
 期末レポート 70%

●留意事項：

●実務経験の授業への活用方法：

●授業予定一覧：

- 1 イントロダクション
 - 2 徳 (1)：英雄社会における徳
 - 3 徳 (2)：ポリス社会における徳
 - 4 徳 (3)：枢要徳
 - 5 徳 (4)：善のアイデア
 - 6 幸福 (1)：最も善きもの
 - 7 幸福 (2)：エウダイモニア
 - 8 友愛 (1)：友愛の条件
 - 9 友愛 (2)：自己愛から始まる愛
 - 10 情念 (1)：パトス
 - 11 情念 (2)：情念の正体
 - 12 情念 (3)：情念の分類
 - 13 隣人愛 (1)：神への愛／人への愛
 - 14 隣人愛 (2)：赦し
 - 15 まとめ
- 期末レポート

●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

授業で学んだことを書きとめておき、興味を持った点や疑問点について参考書などで調べ、自分の関心を深める。

【必携書（教科書販売）】

【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

<必携書>
 毎回の授業で資料を配布する。

<参考書等>

『ソクラテスの弁明・クリトン』、プラトン〔著〕、久保勉〔訳〕、岩波文庫
 『ニコマコス倫理学』上下、アリストテレス〔著〕、高田三郎〔訳〕、岩波文庫
 『聖書 新共同訳 旧約聖書続編つき』、日本聖書協会
 『自省録』、マルクス・アウレリウス〔著〕、神谷美恵子〔訳〕、岩波文庫

文学Ⅰ

[担当者] 野澤 真樹
 [開講期] 1期
 [授業形態] 講義 [単位] 2
 [科目ナンバリング] 110C0-1234-o2

●本授業の概要：

江戸時代の「教訓」と「教養」について学ぶ。江戸時代には幅広い読者層に向けた様々な読み物が生み出された。それらの中には「教訓」を目的に掲げるものが多い。また、庶民向けの戯作であっても、文中には様々な「教養」がちりばめられている。当時刊行された資料を通して、当時の人々が日常的に得ていた“常識”に迫ることを目指す。

●到達目標：

- ①江戸時代の文学に関する基礎知識を身につける。
- ②江戸時代の「教訓」と「教養」を作品から読み取り、それが必要とされた時代背景について説明できる。
- ③江戸時代の作品を読み、課題を見つけて考察することができる。

●成績評価の基準：

大福帳の記入 10% (②)
 小テスト 30% (①)
 レポート 60% (②③)

●留意事項：

オフィスアワー 月曜5,6限

●実務経験の授業への活用方法：

●授業予定一覧：

- 1 江戸時代の教訓と教養
- 2 教養としてのパロディ① — 『百人一首』の享受
- 3 教養としてのパロディ② — 『仁勢物語』を読む
- 4 浅井了意の教訓書① — 『堪忍記』
- 5 浅井了意の教訓書② — 『かなめいし』と『むさしあぶみ』
- 6 「大和言葉」と和歌の教養 — 『薄雪物語』①
- 7 レポート課題発表
『薄雪物語』②
- 8 長者になるための教訓① — 『長者教』
- 9 長者になるための教訓② — 『町人考見録』
- 10 浮世草子にみる教訓 — 井原西鶴『本朝廿不孝』
- 11 往来物と浮世草子 — 井原西鶴『万の文反古』
- 12 「談義本」を読む — 『教訓雑長持』
- 13 「心学」と黄表紙 — 『心学早染草』①
- 14 『心学早染草』②
- 15 レポート提出

※毎回の授業の最後に「大福帳」にコメントや質問を記入し、提出する。
 ※15回の授業のうち2回「大福帳」を用いた小テストを行う。

●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

授業中に紹介した作品のうち、興味を持ったものを通読する。

【必携書（教科書販売）】

【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

<参考書等>
 授業中にプリントを配布する。

文学Ⅱ

[担当者] 遊佐 徹
 [開講期] 1期
 [授業形態] 講義 [単位] 2
 [科目ナンバリング] 110C0-1234-o2

●本授業の概要：

中国文学における小説ジャンルについて、その成立過程と変遷、そして特徴を文体、主要モチーフ、近代化などに焦点を当てつつ通覧します。

●到達目標：

- 以下の諸点を目指します。
- 1 本来中国語である「小説」という言葉の原義を知る。
 - 2 中国の小説の成立と発展過程を理解する。
 - 3 他言語文化圏の小説ジャンルとの共通点と相違点を把握し、文学における小説ジャンルの存在意義を理解する。

●成績評価の基準：

指名回答10%、授業中に課す小課題20%、期末テスト70%で採点します

●留意事項：

小説や物語文学に興味関心があること。また、中国の文学、文化に関心があること。

●実務経験の授業への活用方法：

●授業予定一覧：

- 1 ガイダンス
- 2 魯迅からの旅1、歴史的概観
- 3 魯迅からの旅2、小説の原義と近代「小説」
- 4 文言と白話：中国文学における文学言語と小説
- 5 神話と物語と小説
- 6 事実か虚構か：六朝志怪小説、志人小説
- 7 唐代伝奇小説の文学性
- 8 庶民の物語の誕生：宋代に始まる変化
- 9 『三国志演義』の成立：白話小説の時代へ
- 10 四大奇書：明代傑作小説
- 11 歴史小説としての白話小説
- 12 移動する人々：白話小説のドラマの構造
- 13 短編小説の盛行
- 14 清代白話小説の特徴
- 15 中国近代「小説」の誕生：再び魯迅へ
- 16 試験

●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

この授業では、できる限り中国の小説作品を原文と翻訳の形式で読みます。受講者の皆さんは、事前に配布する作品資料をよく読んで出席してください。また、随時様々な質問を投げ掛けますので的確に答えられるよう予習、復習に励んでください。

【必携書（教科書販売）】

【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

<必携書>
 漢和字典
 <参考書等>
 参考文献については授業中に紹介します。

文学Ⅲ

[担当者] 遊佐 徹
 [開講期] 2期
 [授業形態] 講義 [単位] 2
 [科目ナンバリング] 110C0-1234-o2

●本授業の概要：

テーマ 中国古典白話小説の世界——『三国志演義』を中心に中国を代表する長編小説『三国志演義』を中心に据えて、白話体で書かれた古典小説の成立と展開のドラマを探ります。

●到達目標：

単なる文学作品を超えて、古典白話小説を文化的存在として捉え、従来の文学史的記述とは異なる中国小説観を獲得することを目指します。

●成績評価の基準：

受講態度 20%
 質問提示 10% によって評価します。
 期末試験 70%

●留意事項：

中国史について一定レベルの知識を持っていること。

●実務経験の授業への活用方法：

●授業予定一覧：

- 1 ガイダンス
- 2 「小説」と中国の「小説」
- 3 近代からの視点—近代と「近代小説」
- 4 中国小説史概観
- 5 『三国志演義』あらすじ1
- 6 『三国志演義』あらすじ2
- 7 語り物文芸と『三国志演義』—桃園結義の場面の比較を通して
- 8 中国演劇史概観
- 9 元曲と『三国志演義』—虎牢関の場面の比較を通して
- 10 京劇と『三国志演義』—虎牢関の場面の比較を通して
- 11 『三国志演義』の成立と展開
- 12 口語共通語の成立と「小説」
- 13 歴史上・文学上・漢語の「近代」
- 14 近代的存在としての中国「古典」小説
- 15 文学史の形成と「小説」
- 16 試験

●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

どのようなバージョンでも結構ですから、『三国志演義』を読んでください。また、原文資料も使用しますから、言葉の意味など漢和字典で確認してください。

【必携書（教科書販売）】

【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

<必携書>
 コピー資料を配布します。
 <参考書等>
 参考文献については授業中に紹介します。

文学Ⅳ

[担当者] 村中 李衣
 [開講期] 1期
 [授業形態] 講義 [単位] 2
 [科目ナンバリング] 110C0-1234-o2

●本授業の概要：

国内外の児童文学作品及び絵本を鑑賞することを通して、「物語」のもつ力とそれを受容する読者の間に生じる読みのダイナミクスを学ぶ。毎回、児童文学作品については1～2編、絵本については3作品程度を読み解く。また、創作のベースとなるメルヘンの構造についても、最初に学び、後の作品読解の手がかりになるようにする。

●到達目標：

1. 児童文学作品に関心を持ち、積極的に読書するとともに、それぞれの作品世界について自分なりの意見や世界観を持てるようになる。
2. メルヘンの構造にも理解を深め、巷のメディアに翻弄されない児童文学作品の適切な選択ができるようになる。
3. 読みあいの概要と方法を理解し、日常場面でコミュニケーションの一助とすることができる。

●成績評価の基準：

授業中の討論への参加 20%（到達目標3）
 レポート 80%（到達目標1, 2）

●留意事項：

オフィスアワーは、授業開始時に指示する

●実務経験の授業への活用方法：

現役の児童文学の実作者として、絵本や児童文学作品が創作過程において或いは編集過程においてどのような意図をもって創られていくのかを具体的に解き明かしながら、読者との接点について考えを広げていくことに役立てていく。

●授業予定一覧：

- ①児童文学とは
- ②メルヘンの系譜その1：しらゆきひめ
- ③メルヘンの系譜その2：あかずきん
- ④メルヘンの系譜その3：ももたろう
- ⑤ファンタジーの公式：モーリスセンダックの世界
- ⑥ファンタジーの公式：エリック・カールの世界
- ⑦幼年童話の構造その1：あまんきみこの世界
- ⑧幼年童話の構造その2：神沢利子の世界
- ⑨短編童話の構造：安房直子の世界
- ⑩文学教材の問題を考える：レオ・レオニ作品について
- ⑪翻訳児童文学の問題と可能性
- ⑫文学と語り
- ⑬読書療法から読みあいへ
- ⑭読みあい体験
- ⑮まとめ

●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

テキストを授業内での指示に従って事前に読み考えてきてもらいます。

【必携書（教科書販売）】

子どもと絵本を読みあう、村中李衣、ぶどう社

【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

文学Ⅴ

[担当者] 小林 修典
 [開講期] 2期
 [授業形態] 講義 [単位] 2
 [科目ナンバリング] 110C0-1234-o2

●本授業の概要：

伝記、評伝、自伝など、ライフストーリーのたどれる文献の講読を通して、近現代の日本における人間形成のパターンや研究課題について考察する。特に青少年期のアイデンティティの形成に注目する。時代風潮、家庭環境、学校教育といった外的要因に、個人の気質や特質がどのように反応しながら人間形成がなされていくかを考えたい。扱う時代は明治から昭和までとする。

●到達目標：

- 1 伝記や自伝などを読み解く力を養うとともに、対象となる人物をさまざまな角度から多角的にとらえることができるようになる。
- 2 時代背景を考慮しつつライフストーリーがたどれるようになる。

●成績評価の基準：

平常点（課題など）20%（到達目標1、2）
 期末レポート 30%（到達目標1、2）
 期末試験 50%（到達目標1、2）

●留意事項：

オフィスアワー 授業中に指示する

●実務経験の授業への活用方法：

●授業予定一覧：

- 1 イントロダクション 人間形成とアイデンティティ
- 2 岡山ゆかりの人々
- 3 女性の視点から
- 4 異文化に生きる（日本人の海外体験）
- 5 異文化に生きる（日本の外国人）
- 6 芸術の探究
- 7 女性アスリート
- 8 ビジネスの世界
- 9 戦争経験
- 10 戦地の体験
- 11 信仰者として
- 12 キリスト教との出会い
- 11 病との闘い
- 13 社会福祉
- 14 教育者として
- 15 まとめ

●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

自主的かつ積極的に予習・復習をすることが望まれる。毎回の授業で取り上げるライフストーリーについて、指定された文献に目を通し、予習しておく。各自の関心に基づいて探究するテーマの研究内容を課題レポートとしてまとめるので、毎回の授業への積極的な参加と、十分な授業外学習が求められる。

【必携書（教科書販売）】

【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

必要に応じて、印刷物を配布する。

文学Ⅶ

[担当者] 広瀬 佳司
 [開講期] 1期
 [授業形態] 講義 [単位] 2
 [科目ナンバリング] 110C0-1234-o2

●本授業の概要：

イギリス文学に花開く「アウトサイダー」の概念がポーランド出身の作家アイザック・シンガーに及ぼす影響を与えているのかを作品を通して考えたい。

●到達目標：

文学のクラスを通して、ものの考え方を広くすることが出来る。発想を豊かにできる。思想性を高めることができる。

●成績評価の基準：

授業への取り組み度 20%
 レポート・小テスト 30%
 定期試験 40%
 発表点 10%

●留意事項：

木曜日 7, 8 時限

●実務経験の授業への活用方法：

●授業予定一覧：

1. アウトサイダーの概念を学ぶ。配布されたプリント読む。教科書の指定箇所を読むこと。
2. アイザック・バシェヴィス・シンガーの作家とその背景を探る。教科書の指定箇所を読むこと。
3. 愛欲と神の関係性を考察する。教科書の指定箇所を読むこと。
4. 文学的曖昧性とは何かを考える。教科書の指定箇所を読むこと。
5. 過去の意味とは何かを考える。教科書の指定箇所を読むこと。
6. アウトサイダーの内奥への旅というテーマで物語を分析する。教科書の指定箇所を読むこと。
7. シュレミールの文学と何か見ていく。教科書の指定箇所を読むこと。
8. アンチ・ヒーロー像をめぐる問題を学ぶ。教科書の指定箇所を読むこと。
9. 「聖と俗」ユダヤ系の文学世界の特徴を学ぶ。教科書の指定箇所を読むこと。
10. 「聖と俗」ユダヤ系の文学世界を具体的に考える。教科書の指定箇所を読むこと。
11. 「聖と俗」ユダヤ系の文学世界と日本文学との比較も考える。教科書の指定箇所を読むこと。
12. ホロコーストの文学の基本を学ぶ。教科書の指定箇所を読むこと。
13. ホロコーストの文学の歴史を学ぶ。教科書の指定箇所を読むこと。
14. ホロコーストの文学の意味を考える。教科書の指定箇所を読むこと。
15. まとめ
16. テスト

●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

毎回指定されたテキストの範囲を読んで、不明な言葉は図書館等で調べておくこと。
 復習もよくして、不明な箇所は質問にいくこと。

【必携書（教科書販売）】

【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

<参考書等>

授業で指示します。

芸術Ⅰ

[担当者] 大谷 文彦
 [開講期] 1期
 [授業形態] 講義 [単位] 2
 [科目ナンバリング] 110D0-1234-o2

●本授業の概要：

中世以来のグレゴリオ聖歌は、数百年の間に典礼・音楽両面から次第に形を変え発展していった。授業では毎回始めに一つのグレゴリオ聖歌を歌い、中世のオルガスムやルネサンスのミサ曲などを鑑賞しながら、祈りのひとつとして民衆に受け入れられていった宗教音楽を味わっていく。中世の音楽理論についても軽く触れたい。

●到達目標：

・グレゴリオ聖歌や、中世・ルネサンスの宗教音楽の魅力を感じるとともに、西洋音楽の変遷の様子を簡単に説明できる。
 ・音楽に対する新しい視点を知ることによって、物事を多角的に見る経験をする。
 ・グレゴリオ聖歌を1曲覚えることができる。

●成績評価の基準：

・授業中の関心・態度：14%
 ・学期末テスト：66%
 ・グレゴリオ聖歌暗譜唱：20%

●留意事項：

・ある程度、楽譜が読めることが望ましい。

●実務経験の授業への活用方法：

・その当時の演奏解釈による古楽演奏活動をしていたり、
 ・カトリック信者として現在の日本のミサに関わっていたり、
 ・自身が少年期に、教会でグレゴリオ聖歌を歌っていたという経験を活かして、実践に裏付けされた理論を展開する。

●授業予定一覧：

- I 単旋律聖歌の変遷
 - 1 宗教音楽とミサ曲
 - 2 グレゴリオ聖歌の実際
 - 3 クラシック音楽中のグレゴリオ聖歌
 - 4 中世の音楽理論（グイードの左手）
 - 5 トロースとゼクウェンツィアの役割
 - 6 トロースの実際
- II ポリフォニー音楽の発達
 - 7 定旋律とオルガスム
 - 8 ノートルダム楽派
 - 9 モドゥスリズム
 - 10 モテトゥス
- III ルネサンスの音楽
 - 11 定量記譜法
 - 12 ギョーム・ド・マショーとインソリズム
 - 13 ブルゴーニュ楽派
 - 14 フランドル楽派
 - 15 オラショ
- IV 学期末試験
 - 16 学期末試験

●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

毎回の授業にちゃんと出て、眠らないでちゃんと聞いていれば、難易度は決して高くない。カタカナが出てきて、頭がパニックにならないこと。

【必携書（教科書販売）】

「中世・ルネサンスの音楽」, 皆川達夫, 講談社学術文庫

【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

芸術Ⅱ

[担当者] 大谷 文彦
 [開講期] 2期
 [授業形態] 講義 [単位] 2
 [科目ナンバリング] 110D0-1234-o2

●本授業の概要：

モンテヴェルディを皮切りとして花開き、音を駆使してテキスト内容を表現しようとするバロック音楽は、宗教改革を終えたドイツで、プロテスタントの賛美歌を恰好の題材としながら発展していった。後期は特に2人の作曲家、イタリアのモンテヴェルディとドイツのバッハにフォーカスを当て、前者の「聖母マリアの夕べの祈り」や、後者の「マタイ受難曲」を鑑賞しながら、その作曲法の巧みさと靈性を味わっていく。古楽器についても触れる。

●到達目標：

・オリジナル楽器による演奏を鑑賞しながら、バロック音楽の特有の音楽観を発見することができる。
 ・モンテヴェルディやバッハに見るバロック音楽独特の作法を味わい、その面白さを感じ取り、簡単に説明できる。
 ・コラールを1～2曲、暗譜で歌うことができる。

●成績評価の基準：

・授業中の関心・態度：10%
 ・定期試験：80%
 ・コラール暗譜：10%

●留意事項：

・芸術Ⅰの単位修得者が好ましい。
 ・内1回、岡山カトリック教会に集合して、オルガンについて学ぶ。またとないチャンス。

●実務経験の授業への活用方法：

・自身がカトリック信者として教会のオルガニストを務めたり、
 ・その当時の演奏解釈による古楽演奏活動をしていたりすることによって、実践的なアプローチをする。

●授業予定一覧：

- I バロックの夜明け
 - 1 カメラータと呼ばれる人々
- II モンテヴェルディ
 - 2 マドリガーレ集
 - 3 「聖母マリアの夕べの祈り」 i
 - 4 「聖母マリアの夕べの祈り」 ii
 - 5 「オルフェオ」 i
 - 6 「オルフェオ」 ii
- III 宗教改革
 - 7 オルガンの魅力
 - 8 ルターからバッハへ
- IV バッハとヘンデル
 - 9 「マタイ受難曲」 i
 - 10 「マタイ受難曲」 ii
 - 11 「マタイ受難曲」 iii
 - 12 「マタイ受難曲」 iv
 - 13 「マタイ受難曲」 v
 - 14 「メサイア」
 - 15 ミサとミサ曲・古楽器
- V 定期試験
 - 16 定期試験

●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

毎回、授業に出て、眠らないでちゃんと聞いていれば、難易度は決して高くない。

【必携書（教科書販売）】

「バロック音楽—豊かな生のドラマ—」, 磯山 雅, NHKブックス

【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

芸術Ⅲ

[担当者] 池上 公平
 [開講期] 1期
 [授業形態] 講義 [単位] 2
 [科目ナンバリング] 110D0-1234-o2

●本授業の概要：

伝統的なヨーロッパの美術においては主題の過半がキリスト教のものであるが、それらを理解するためには、キリスト教に関する知識に加え、キリスト教主題がどのように表現されるか、その様相と歴史を知る必要がある。そして、それはヨーロッパ以外すなわちアジア・アフリカ・アメリカ大陸のキリスト教美術を理解する上でも必須のものである。本講義では、その基礎を学ぶ。ここで学ぶことは、美術にとどまらず、文学、音楽、演劇、ひいてはキリスト教そのものの理解にも役立つであろう。ただし、様々な制約があるため、イエス・キリストに関する主題のみを扱うこととした。

なお、期間中、倉敷の大原美術館見学を予定している。

●到達目標：

イエス・キリストに関する主題を扱った美術作品を見て、その主題を理解し、説明することができる。
 ある主題の時代や地域による展開について理解し、説明することができる。

●成績評価の基準：

試験と授業時に課す小レポートによって評価する。

●留意事項：

●実務経験の授業への活用方法：

●授業予定一覧：

- 1 ガイダンス
- 2 キリストの表現
- 3 キリストの幼年時代1(受胎告知)
- 4 キリストの幼年時代2(降誕、羊飼いの礼拝、東方三博士の礼拝)
- 5 キリストの公生涯1(キリストの洗礼、キリストの試練、ベトロとアンデレの召命)
- 6 キリストの公生涯2(キリストの変容、法と鍵の授与)
- 7 キリストの公生涯3(パンと魚の奇跡、カナの婚宴)
- 8 キリストの公生涯4(ラザロの復活、シモンの家のキリスト)
- 9 キリストの受難1(エルサレム入城、神殿からの商人追放、最後の晩餐、使徒たちの聖体拝領)
- 10 キリストの受難2(使徒たちの足を洗うキリスト、ゲッセマネの祈り、キリストの逮捕、ベトロの否認、キリストの鞭打ち)
- 11 倉敷、大原美術館見学
- 12 同上
- 13 キリストの受難3(キリストの磔刑)
- 14 キリストの復活(十字架降下、ピエタ、キリストの墓を訪れる聖女たち、われに触れるな、エマオの晩餐、キリストの復活)
- 15 まとめ
試験

●準備学習(予習・復習)に必要な学修内容：

事前にプリントを配布する。

授業後には内容をまとめておき、小レポートに反映させること。

【必携書(教科書販売)】

【必携書・参考書等(教科書販売以外)】

<参考書>

『聖書』(新共同訳が望ましいが、その他の訳でもかまわない。)

荒井献編『新約聖書外典』講談社

ジェイムズ・ホール『西洋美術解説事典』高階秀爾監修 河出書房新社

ピーター・マレイ、リンダ・マレイ『オックスフォードキリスト教美術・建築事典』中森義宗監訳 東信堂

歴史学Ⅰ

[担当者] 西尾 和美
 [開講期] 1期
 [授業形態] 講義 [単位] 2
 [科目ナンバリング] 110E0-1234-o2

●本授業の概要：

この授業の目的は、政治や経済、社会のしくみだけではなく、年齢や人生の諸段階のとらえ方、家族のあり方についてもその歴史の変容を知ることにある。講義は、日本中世を中心に前後の時代にも言及し、史料を通して歴史を知ることを中心に進め、歴史と比較しつつ現代社会を考察する力を身につける。

●到達目標：

1. 史料から歴史を説明できる。
2. 人間の年齢・段階の歴史の変容を説明できる。
3. 家族の歴史の変容を説明できる。
4. 歴史と現代の人生や家族を比較して、考えを述べるができる。

●成績評価の基準：

中間試験(論述)50%(到達目標1・2・4)

期末レポート50%(到達目標1・3・4)

●留意事項：

オフィスアワー 授業中に指示する。

質疑応答は、原則として毎時間のリアクションペーパーおよび小括・総括の時間を利用して行うが、随時、各授業の前後など、可能な限りそれ以外でも対応する。

●実務経験の授業への活用方法：

●授業予定一覧：

1. はじめに
2. 年齢と人生の諸段階(1)誕生と出産
3. 年齢と人生の諸段階(2)子ども
4. 年齢と人生の諸段階(3)小さな大人
5. 年齢と人生の諸段階(4)成人とジェンダー
6. 年齢と人生の諸段階(5)高齢者
7. 年齢と人生の諸段階(6)病と看護
8. 年齢と人生の諸段階(7)死と命の認識
9. 小括・中間試験
10. 社会と家族(1)家族の規模と構成
11. 社会と家族(2)家族の不安定と流動性
12. 社会と家族(3)家族と血縁
13. 社会と家族(4)家族を構成しない人々
14. 社会と家族(5)生きることを支える絆の多様性
15. 総括
期末レポート

●準備学習(予習・復習)に必要な学修内容：

(予習) 授業で取り上げることがらについて事前に調べて、予備知識をもって授業にのぞむこと。1時間程度。

(復習) 授業後は配付プリントやノートにより復習し、知識を自分のものにするとともに、授業内で紹介する参考文献も積極的に読んで、主体的に関心を育てること。2時間程度。

【必携書(教科書販売)】

【必携書・参考書等(教科書販売以外)】

特定のテキストは使用しない。毎回、プリントを配付する。参考文献は随時、授業中に紹介する。

歴史学Ⅲ

[担当者] 鈴木 真
 [開講期] 2期
 [授業形態] 講義 [単位] 2
 [科目ナンバリング] 110E0-1234-o2

●本授業の概要：

3世紀以前の中国の歴史について、皇帝による支配およびその理念を中心に講義する。

●到達目標：

中国史において皇帝がどのような存在であるかを説明できる。また皇帝が自身の家系や王朝の正統性を確保・喧伝するため、どのような概念・方策を用いていたのかを説明できる。

●成績評価の基準：

小テスト・レポート：10%
 期末試験：90%

●留意事項：

成績評価、および出欠・遅刻の管理は厳格におこなう。
 期末試験は、長文の論述形式でおこなう（持込不可）。
 また、学期中にレポートを課す場合がある。
 オフィスアワー 火曜日 9.10時限

●実務経験の授業への活用方法：

●授業予定一覧：

1. 中国史と皇帝
2. 皇帝とエンペラー
3. 天子と易姓革命
4. 周王と封建制
5. 秦の法家思想
6. 始皇帝の時代
7. 楚漢戦争
8. 漢代における儒家思想の発展
9. 天人相関説と陰陽五行説
10. 宗廟と郊祀
11. 国号と年号と暦
12. 司馬遷と『史記』
13. 漢魏革命と禪譲
14. 正史の編纂と正統性
15. まとめ
16. 期末試験（長文論述形式）

●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

毎回資料プリントを配付するので、講義の前後に熟読して内容を把握し、わからない用語や概念については各自調べておくこと。また関係する書籍を読み、理解を深めておくこと（毎回3時間程度）。

【必携書（教科書販売）】

【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

<参考書等>

必要に応じて講義中にプリントを配付する。

歴史学Ⅳ

[担当者] 轟木 広太郎
 [開講期] 1期
 [授業形態] 講義 [単位] 2
 [科目ナンバリング] 110E0-1234-o2

●本授業の概要：

前半は導入として、ポンペイの遺跡を材料に、古代ローマ人の生活と社会について紹介する。次に西欧を中心とした、16世紀以降のグローバル化を説明する理論＝世界システム論を紹介する。最後に社会史の具体例として、「性愛」と「富と貧困」のふたつのテーマを取り上げる。

●到達目標：

①世界システム論を通じて、高等学校の世界史科目を発展させた、あらたな世界史像の知識や方法論に習熟する。
 ②現代とは異なる過去の世界の行動様式・考え方・感性を追究する社会史の基礎的な方法論とテーマの多様性を理解することができる。

●成績評価の基準：

平常点（15%）（上記①②に該当）と試験（85%）（上記①②に該当）による総合評価。ただし、受講者が少ない場合には、試験をレポートに変更する可能性もある。

●留意事項：

オフィスアワーは授業中に指示する。

●実務経験の授業への活用方法：

●授業予定一覧：

1. イントロダクション
 2. ポンペイ遺跡から見る古代ローマ1：生活の諸相
 3. ポンペイ遺跡から見る古代ローマ2：パンとサーカス
 4. 世界システム論1：理論のあらまし
 5. 世界システム論2：ヘゲモニー国家
 6. 世界システム論3：世界商品をめぐって
 7. 世界システム論4：ヨーロッパの生活革命
 8. 世界システム論5：ハイチの事例
 9. 性愛の歴史1：キリスト教の性倫理
 10. 性愛の歴史2：中世
 11. 性愛の歴史3：近世
 12. 性愛の歴史4：近現代
 13. 富と貧困の歴史1：キリスト教初期
 14. 富と貧困の歴史2：中世
 15. 富と貧困の歴史3：近世
- 試験

●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

毎回配布するプリントには、さまざまな文書資料や図像資料が含まれている。事前に目を通し、授業の概要について、漠然とでかまわないのでイメージを描くようにしてほしい。また、その日の内容に関連する事項については、教員の指示する参考文献などを参照して、自分の関心を深めていくことが求められる（合わせて毎回1時間程度）。

【必携書（教科書販売）】

【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

<必携書>

毎回の授業でプリントを配布する。

日本国憲法 I [英日現]

[担当者] 浅沼 友恵
 [開講期] 2期
 [授業形態] 講義 [単位] 2
 [科目ナンバリング] 110F0-1234-o2

●本授業の概要：

テーマ「平和と人権」近代憲法と呼ばれるためには、なによりも人権の保障がなければならない。また、日本国憲法が、世界に誇れるのは平和主義である。平和主義と人権の有機的な相互関係を明らかにしたい。また、この理念が統治機構にどのように反映しているかを論じる。

●到達目標：

何よりも、日本国憲法の理念をその原点から正しく把握することが目標である。

●成績評価の基準：

受講態度：30点

テスト：70点

毎回、質問・意見に関するリアクション・ペーパーの提出を求める。質問には次回回答するとともに、出席状況の把握に用いる。なお、リアクション・ペーパーが白紙で提出された場合には、受講態度に関する評価が0点になるので、注意すること。

●留意事項：

2 クラス開講する。2 年生以上は対象学部指定はない。いずれのクラスを取ってもよい。オフィスアワーという概念はない。随時、質問に応じます。

●実務経験の授業への活用方法：

●授業予定一覧：

- I. ① イントロダクション
- II. ② 憲法とは何か
- III. 憲法の歴史
 - ③ 近代憲法の成立
 - ④ 近代憲法の理念と近代国家の統治機構
 - ⑤ 大日本帝国憲法の成立とその特色
 - ⑥ 日本国憲法の成立
- IV. 平和主義
 - ⑦ 日本国憲法の平和理念
 - ⑧ 第9条の条文解釈
 - ⑨ 第9条と自衛隊
 - ⑩ 平和主義をめぐる判例
- V. ⑪ 法の下の平等
 - ⑫ 私人間の憲法適用
- VI. 自由権
 - ⑬ 人身の自由
 - ⑭ 思想良心の自由と信教の自由
- VII. テスト
 - ⑮ テスト
- VIII. 社会権
 - ⑯ 生存権と教育権

●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

授業予定は上記の通りなので、事前に教科書を熟読しておくこと。また、毎日のニュースに関心を持つこと。高校までの教科書を復習することも有益。

【必携書（教科書販売）】

『平和と人権の憲法学』、葛生栄二郎、高作正博、真鶴俊喜、法律文化社

【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

日本国憲法 I [人見食]

[担当者] 浅沼 友恵
 [開講期] 1期
 [授業形態] 講義 [単位] 2
 [科目ナンバリング] 110F0-1234-o2

●本授業の概要：

テーマ「平和と人権」近代憲法と呼ばれるためには、なによりも人権の保障がなければならない。また、日本国憲法が、世界に誇れるのは平和主義である。平和主義と人権の有機的な相互関係を明らかにしたい。また、この理念が統治機構にどのように反映しているかを論じる。

●到達目標：

何よりも、日本国憲法の理念をその原点から正しく把握することが目標である。

●成績評価の基準：

受講態度：30点

テスト：70点

毎回、質問・意見に関するリアクション・ペーパーの提出を求める。質問には次回回答するとともに、出席状況の把握に用いる。なお、リアクション・ペーパーが白紙で提出された場合には、受講態度に関する評価が0点になるので、注意すること。

●留意事項：

2 クラス開講する。2 年生以上は対象学部指定はない。いずれのクラスを取ってもよい。オフィスアワーという概念はない。随時、質問に応じます。

●実務経験の授業への活用方法：

●授業予定一覧：

- I. ① イントロダクション
- II. ② 憲法とは何か
- III. 憲法の歴史
 - ③ 近代憲法の成立
 - ④ 近代憲法の理念と近代国家の統治機構
 - ⑤ 大日本帝国憲法の成立とその特色
 - ⑥ 日本国憲法の成立
- IV. 平和主義
 - ⑦ 日本国憲法の平和理念
 - ⑧ 第9条の条文解釈
 - ⑨ 第9条と自衛隊
 - ⑩ 平和主義をめぐる判例
- V. ⑪ 法の下の平等
 - ⑫ 私人間の憲法適用
- VI. 自由権
 - ⑬ 人身の自由
 - ⑭ 思想良心の自由と信教の自由
- VII. テスト
 - ⑮ テスト
- VIII. 社会権
 - ⑯ 生存権と教育権

●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

授業予定は上記の通りなので、事前に教科書を熟読しておくこと。また、毎日のニュースに関心を持つこと。高校までの教科書を復習することも有益。

【必携書（教科書販売）】

『平和と人権の憲法学』、葛生栄二郎ほか

【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

日本国憲法Ⅱ

[担当者] 高橋 正徳
 [開講期] 2期
 [授業形態] 講義 [単位] 2
 [科目ナンバリング] 110F0-1234-o2

●本授業の概要：

本授業では、権利の章典と統治機構から成る近代憲法のうち、統治機構を中心に学ぶ。とくに、近代国家誕生以降の権力分立の意義、統治機構の具体的な仕組みなどについて理解する。

●到達目標：

人権保障を確保するための統治機構の原則である権力分立の意義についての理解を通じて、実社会の中で主権者として考え、行動することができる。

●成績評価の基準：

小テスト：30%
 定期試験：70%

●留意事項：

●実務経験の授業への活用方法：

●授業予定一覧：

- 1 憲法と近代立憲主義
- 2 基本的人権と統治機構
- 3 国民主権—民主主義の基本原則
- 4 国民主権—国民主権と選挙
- 5 立法権—国会の組織
- 6 立法権—国会の権能
- 7 立法権—国政における議会の位置
- 8 行政権—内閣の地位および組織
- 9 行政権—内閣の権限および責任
- 10 行政権—行政権の課題
- 11 司法権—司法権の意義
- 12 司法権—司法権の組織と運用
- 13 司法権—違憲審査制と憲法訴訟
- 14 地方自治—地方公共団体
- 15 地方自治—住民の権利
- 16 定期試験

●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

（予習）次週に予定されているテーマに関して、テキストの該当部分を熟読し、また、新聞を読んで、日々の政治や社会の動きを把握しておくこと。

（復習）授業を通じて得られた知見をもとに、当該テーマについてさらに理解を深める。

【必携書（教科書販売）】

『高校から大学への憲法』、君塚正臣編、法律文化社

【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

<参考書等>

小型の六法（どれでもよい）

社会学

[担当者] 中山 ちなみ
 [開講期] 2期
 [授業形態] 講義 [単位] 2
 [科目ナンバリング] 110G0-1234-o2

●本授業の概要：

本講義では、私たちの身近で起こっている具体的な現象や社会問題を事例として取り上げ、それらを社会学の知見と結びつけて考えることにより、社会学の基礎的な理論や知識を修得することをめざす。社会的なものの方、考え方を学ぶことで、今まで自分では気づいていなかったこと、「あたりまえ」と思っていたことが、別の見え方をしてくるという社会学のおもしろさ・難しさを、少しでも感じ取ってもらいたい。

●到達目標：

- ①社会学とは、何のための、どのような学問であるかということについて、自分なりの言葉で述べることができる。
- ②社会学が扱う多様な対象・領域に関心を持つことができる。
- ③社会事象を分析・説明・解釈する力を身につけ、向上させる。
- ④自分を取り巻くさまざまな「社会」で生じている問題を発見することができる。
- ⑤自分自身が「社会」とつながっている社会的存在であることを理解し、それを自分の言葉で説明できる。

●成績評価の基準：

期末筆記試験：80%（到達目標①②③④⑤）
 課題レポート：10%（到達目標②③④）
 リアクションペーパー：10%（到達目標①②③④⑤）

●留意事項：

授業で紹介した事象や概念をただ覚えるだけの受け身的な態度ではなく、社会的な見方をすることによって、自分の身の周りで起こっている問題がどのように分析・説明できるのかということを考えながら、能動的・積極的な姿勢で授業に臨んでもらいたい。

質問等は、原則としてその授業の終了直後かオフィスアワーで対応するが、授業中でも遠慮せずに尋ねてもらってかまわない。オフィスアワーについては、授業中に指示する。

●実務経験の授業への活用方法：

●授業予定一覧：

1. イントロダクション
 2. 社会的存在としての人間
 3. アイデンティティ
 4. ジェンダー
 5. 社会の現状と動向を把握する——データの読み方——
 6. ライフコースと家族（1）
 7. ライフコースと家族（2）
 8. 社会の多様な局面をとらえる——映画を題材に——
 9. 都市の生活と人間関係（1）
 10. 都市の生活と人間関係（2）
 11. 社会規範
 12. 同調行動と逸脱行動
 13. 社会階層と平等
 14. 権力
 15. まとめ
- 期末筆記試験

●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

ほぼ毎回の授業でプリントを配付する。授業後は、ノートやプリントを読み直して知識を確実なものにしていくとともに、授業で得た知見を実際の社会事象に適用し、説明しようとする姿勢をぜひ身につけてもらいたい。授業を振り返り、ノートをまとめるための時間として、毎回、1～2時間程度の復習を求める。授業中に紹介する参考図書等も積極的に読んでほしい。

【必携書（教科書販売）】

【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

<参考書等>

講義時間中に随時紹介する。

心理学Ⅱ

[担当者] 西 隆太郎
 [開講期] 1期
 [授業形態] 講義 [単位] 2
 [科目ナンバリング] 11010-1234-o2

●本授業の概要：

この授業では、臨床心理学の基礎を概説します。カウンセリング、教育、保育などの場で、人と人が出会い、ともに成長していくための心理学です。

臨床心理学の基礎を幅広く扱っていきませんが、中でも大事にしたいことは、「相互性の観点」と「物語」です。カウンセラー自身も、相手と出会って成長していること。教えた内容そのものよりも、自由に語り合った夢の方に意味があること。

子どもたちと出会った事例など、映像なども使用しながら、心について考えていきます。

●到達目標：

臨床心理学の観点から、「出会うこと、ともに成長すること」に関するテーマを選び、文献・資料を踏まえながら、自分自身の考察を深めること。

●成績評価の基準：

1. レポート 70%

臨床心理学に関するテーマを選択し、自ら文献・資料を読み解き、これに基づく考察を論述としてまとめることができる。

2. 課題 30%

臨床心理学について、授業で扱ったテーマを理解し、manaba folioを用いた小レポートを通して説明することができる。

●留意事項：

毎回の授業後に、リアクション・ペーパーを提出してもらいます。

また、授業内容への理解を確認するため、manaba folioを用いた小レポートを実施します。

オフィスアワー 金曜日 3,4時限

●実務経験の授業への活用方法：

臨床心理士、スクールカウンセラー等の経験を生かし、心理学・心理療法についての実際理解を深めます。

●授業予定一覧：

1. 臨床心理学とは何か
 2. 臨床心理学の方法論について
 3. 心をどう見るかー力動論と行動論
 4. カウンセリングの考え方
 5. 行動という通路ー行動療法
 6. ありのままの私ー来談者中心療法
 7. 子どもと出会うー遊戯療法
 8. 環境と関係性ー精神分析療法
 9. 心と物語ー夢の分析
 10. 語られる言葉をどう聴くかーコミュニケーションの理解
 11. 人間の発達ー人生の歴史とその意味
 12. 家族関係と社会の影響
 13. 教育・保育と心理学
 14. 心の「病」について
 15. 生涯発達と個性化
- 定期試験（レポートによる）

●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

授業についての連絡・フィードバックを双方向的に行うため、manaba folioを使用します。受講者は必ず、manaba folio 掲示板のリマインダ機能をオンにして、内容を見ておくようにしてください。

【必携書（教科書販売）】

【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

<参考書等>

毎回の講義でお伝えします。図書館1Fに西の授業に関する指定図書コーナーを設けていますので、手に取ってみてください。

心理学Ⅱ（臨床心理学概論）

[担当者] 西 隆太郎
 [開講期] 1期
 [授業形態] 講義 [単位] 2
 [科目ナンバリング] 11010-1234-o2

●本授業の概要：

この授業では、臨床心理学の基礎を概説します。カウンセリング、教育、保育などの場で、人と人が出会い、ともに成長していくための心理学です。

臨床心理学の基礎を幅広く扱っていきませんが、中でも大事にしたいことは、「相互性の観点」と「物語」です。カウンセラー自身も、相手と出会って成長していること。教えた内容そのものよりも、自由に語り合った夢の方に意味があること。

子どもたちと出会った事例など、映像なども使用しながら、心について考えていきます。

●到達目標：

臨床心理学の観点から、「出会うこと、ともに成長すること」に関するテーマを選び、文献・資料を踏まえながら、自分自身の考察を深めること。

●成績評価の基準：

1. レポート 70%

臨床心理学に関するテーマを選択し、自ら文献・資料を読み解き、これに基づく考察を論述としてまとめることができる。

2. 課題 30%

臨床心理学について、授業で扱ったテーマを理解し、manaba folioを用いた小レポートを通して説明することができる。

●留意事項：

毎回の授業後に、リアクション・ペーパーを提出してもらいます。

また、授業内容への理解を確認するため、manaba folioを用いた小レポートを実施します。

オフィスアワー 金曜日 3,4時限

●実務経験の授業への活用方法：

臨床心理士、スクールカウンセラー等の経験を生かし、心理学・心理療法についての実際理解を深めます。

●授業予定一覧：

1. 臨床心理学とは何か
 2. 臨床心理学の方法論について
 3. 心をどう見るかー力動論と行動論
 4. カウンセリングの考え方
 5. 行動という通路ー行動療法
 6. ありのままの私ー来談者中心療法
 7. 子どもと出会うー遊戯療法
 8. 環境と関係性ー精神分析療法
 9. 心と物語ー夢の分析
 10. 語られる言葉をどう聴くかーコミュニケーションの理解
 11. 人間の発達ー人生の歴史とその意味
 12. 家族関係と社会の影響
 13. 教育・保育と心理学
 14. 心の「病」について
 15. 生涯発達と個性化
- 定期試験（レポートによる）

●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

授業についての連絡・フィードバックを双方向的に行うため、manaba folioを使用します。受講者は必ず、manaba folio 掲示板のリマインダ機能をオンにして、内容を見ておくようにしてください。

【必携書（教科書販売）】

【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

<参考書等>

毎回の講義でお伝えします。図書館1Fに西の授業に関する指定図書コーナーを設けていますので、手に取ってみてください。

心理学Ⅲ

[担当者] 多田 志麻子

[開講期] 2期

[授業形態] 講義 [単位] 2

[科目ナンバリング] 11010-1234-o2

●本授業の概要：

健康の維持増進、病気の予防のための心理学の基礎および実践の知識を理解する。

授業では、健康に関する心の仕組みや働きを学ぶ。また、心理テスト等を実施し、自ら体験しながら、自己を知り、自らの健康をよりよくコントロールできるようにする。さらに、心の健康教育としてストレスマネジメントについて理論やスキルを習得する。

●到達目標：

健康に関する心理学の基礎的知識を説明できる。

自己を振り返り、自らの健康をよりよくコントロールできる。

心の健康教育に関する実践方法を説明できる。

●成績評価の基準：

定期試験：60%

小テスト：20%

授業への取り組み：20%

●留意事項：

●実務経験の授業への活用方法：

●授業予定一覧：

- 1 発達と健康に関する特徴 ①新生児期・乳幼児期
- 2 発達と健康に関する特徴 ②児童期・青年期
- 3 発達と健康に関する特徴 ③成人期・老年期
- 4 健康行動の基礎
- 5 フラストレーション
- 6 ストレスと健康
- 7 パーソナリティと健康
- 8 自己理解
- 9 他者理解
- 10 発達障害と支援
- 11 災害時の心理支援
- 12 心の健康教育
- 13 ストレスマネジメント ①
- 14 ストレスマネジメント ②
- 15 まとめ
定期試験（筆記試験）

●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

授業後、配布資料とノートを見直し、復習し、次の授業に臨む。

【必携書（教科書販売）】

【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

<参考書等>

毎回、資料を配布する。

参考書は授業中に提示する。

心理学Ⅲ（健康・医療心理学）

[担当者] 多田 志麻子

[開講期] 2期

[授業形態] 講義 [単位] 2

[科目ナンバリング] 11010-1234-o2

●本授業の概要：

健康の維持増進、病気の予防のための心理学の基礎および実践の知識を理解する。

授業では、健康に関する心の仕組みや働きを学ぶ。また、心理テスト等を実施し、自ら体験しながら、自己を知り、自らの健康をよりよくコントロールできるようにする。さらに、心の健康教育としてストレスマネジメントについて理論やスキルを習得する。

●到達目標：

健康に関する心理学の基礎的知識を説明できる。

自己を振り返り、自らの健康をよりよくコントロールできる。

心の健康教育に関する実践方法を説明できる。

●成績評価の基準：

定期試験：60%

小テスト：20%

授業への取り組み：20%

●留意事項：

●実務経験の授業への活用方法：

●授業予定一覧：

- 1 発達と健康に関する特徴 ①新生児期・乳幼児期
- 2 発達と健康に関する特徴 ②児童期・青年期
- 3 発達と健康に関する特徴 ③成人期・老年期
- 4 健康行動の基礎
- 5 フラストレーション
- 6 ストレスと健康
- 7 パーソナリティと健康
- 8 自己理解
- 9 他者理解
- 10 発達障害と支援
- 11 災害時の心理支援
- 12 心の健康教育
- 13 ストレスマネジメント ①
- 14 ストレスマネジメント ②
- 15 まとめ
定期試験（筆記試験）

●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

授業後、配布資料とノートを見直し、復習し、次の授業に臨む。

【必携書（教科書販売）】

【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

<参考書等>

毎回、資料を配布する。

参考書は授業中に提示する。

数学 I

[担当者] 水野 博
 [開講期] 1期
 [授業形態] 講義 [単位] 2
 [科目ナンバリング] 110J0-1234-o2

●本授業の概要：

線形代数の基礎として、行列、行列式及びその応用について学ぶ。その計算法をまず修得する。次に応用として、連立1次方程式、線形変換、統計の初歩について述べる。

●到達目標：

1. 行列式及び行列の計算ができること。
2. 複数の方法で連立1次方程式を解けること。
3. 線形変換ができること。
4. 統計の基本用語を理解し、行列との関連性を見ること。

●成績評価の基準：

課題：20%（到達目標1, 2, 3, 4）
 小テスト：20%（到達目標1, 2, 3, 4）
 定期試験：60%（到達目標1, 2, 3, 4）

●留意事項：

一度欠席するとついてくるのが困難になることがあるので注意すること。論理的思考力を養うことがこの講義のねらいでもあるので、受講生はそのことを理解しておくこと。授業終了後に教室で質問を受け付ける。

●実務経験の授業への活用方法：

●授業予定一覧：

1. 2次の行列式
 2. 3次の行列式
 3. 行列式の性質
 4. 多元連立1次方程式
 5. 余因子と小行列式
 6. 行列
 7. 行列の計算
 8. 逆行列
 9. 線形変換とベクトル
 10. 線形変換の行列表示
 11. 線形変換の合成, 逆変換
 12. 統計の必要性
 13. 統計の基礎
 14. 統計と行列
 15. 総合演習
- 定期試験

●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

予習より復習を重視すること。授業中に話すことをまず理解することが大切であり、わからなければその場で質問すること。授業中にその日の内容の練習問題を配布するので、それを各自解いておくこと。

【必携書（教科書販売）】

【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

<必携書>
 使用しない。その代わりに、必要な場合はプリントを配付する。

物理学 I

[担当者] 水野 博
 [開講期] 1期
 [授業形態] 講義 [単位] 2
 [科目ナンバリング] 110K0-1234-o2

●本授業の概要：

惑星、恒星、銀河系、宇宙などについて得られているデータやそれから推測される天体や宇宙の姿について述べる。宇宙の神秘、調和にふれてもらえば幸いである。

●到達目標：

- 遠い天体の真の姿についての知見を得るために、どんなデータからどういう論理を用いて導くのか、その過程の概要を理解し、説明できる。
1. 天体のサイズや距離を知り、説明できる。
 2. 天体の構造を知り、説明できる。
 3. それらを知るための論理の概要を知り、説明できる。
 4. 時間変化を知り、説明できる。

●成績評価の基準：

課題：20%（到達目標1, 2, 3, 4）
 小テスト：20%（到達目標1, 2, 3, 4）
 定期試験：60%（到達目標1, 2, 3, 4）

●留意事項：

この講義は、天体に関する単なる博物学的な知識を得るためのものではない。到達目標にあるように、論理的思考力を養うことが大切である。受講生はそのことを理解しておくこと。授業終了後に教室で質問を受け付ける。

●実務経験の授業への活用方法：

●授業予定一覧：

1. 宇宙の階層, 太陽系のスケール
 2. 地球のスケール
 3. 地球の内部
 4. 地球の大気
 5. 地球の自転, 公転
 6. 太陽系の仲間
 7. 内惑星の特徴, 内部構造
 8. 外惑星の特徴, 内部構造
 9. 太陽の内部構造
 10. 恒星の内部構造
 11. 恒星の一生
 12. 銀河系の構造
 13. 銀河系の分布
 14. 宇宙と構造と進化
 15. 太陽系の起源
- 定期試験

●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

予習より復習を重視すること。授業中に話した内容をもう一度確認したり、計算を自分でやってみること。

【必携書（教科書販売）】

【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

<必携書>
 なし。必要な場合はプリントを配付する。

<参考書等>

なし

化学Ⅱ

[担当者] 宮崎 正博
 [開講期] 2期
 [授業形態] 講義 [単位] 2
 [科目ナンバリング] 110L0-1234-o2

●本授業の概要：

本授業は、細胞培養について、また再生医療の材料として注目される成体幹細胞、ES細胞、iPS細胞などの性質と機能について、その基礎的な内容を修得することを目的とする。文化系、理科系を問わず、すべての女子大生が興味を持って取り組むことができるように、細胞培養や再生医療の基礎的な内容をわかりやすく解説する。

●到達目標：

細胞培養（培養の設備、無菌操作など）、また、成体幹細胞、ES細胞、iPS細胞などの培養とその移植による障害組織・臓器の再生と機能修復について基礎的事項を説明することができる。また、これに伴う生命倫理問題について考えを述べることができる。

●成績評価の基準：

授業中にレポートを課す。成績評価は、授業への取り組み度20%、レポート80%により判定する。

●留意事項：

15回授業の2/3以上に出席した者が成績評価の対象となる。遅刻や欠席がないように受講すること。

●実務経験の授業への活用方法：

●授業予定一覧：

1. 細胞の構造と機能
2. 細胞培養の基本
3. 細胞の継代培養、クローニング、凍結保存
4. ラット肝細胞の初代培養とその移植による肝機能補助
5. ヒト肝細胞の初代培養と不死化
6. 不死化ヒト肝細胞移植による肝機能補助
7. 成体幹細胞の分離
8. 成体幹細胞の培養と分化誘導
9. 成体幹細胞と再生医療
10. ES細胞の作成
11. ES細胞の培養と分化誘導
12. ES細胞と再生医療
13. iPS細胞の作成
14. iPS細胞の培養と分化誘導
15. iPS細胞と再生医療

●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

（予習）この授業では、プリントを配布します。可能な限り授業の前日までに、授業に利用するプリントを閲覧し、全体の話の流れや疑問点などを把握した上で出席してください。

（復習）授業で使用したプリントを閲覧し、講述した内容を整理してレポート作成の準備をしてください。

【必携書（教科書販売）】

【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

<必携書>

プリントを配布する。

生物学Ⅰ

[担当者] 小川 賢一
 [開講期] 1期
 [授業形態] 講義 [単位] 2
 [科目ナンバリング] 110M0-1234-o2

●本授業の概要：

本授業は、身近な生き物や自然環境を学ぶことで、生態系の成り立ちを理解し、生き物の観察する技法を修得することを目的とする。授業では、生き物の観察を扱ったビデオ教材を用いるなどして、人間と自然の関わりについて考察する。

●到達目標：

- ① 生き物の観察の知識を身につけることができる。
- ② 多様な自然環境で生き物の観察ができる。
- ③ 自然の大切さを説明できる。

●成績評価の基準：

レポート 30% (③)

定期試験 70% (①、②、③)

●留意事項：

オフィスアワー 授業中に指示する。

質問は随時、直接受け付ける。

●実務経験の授業への活用方法：

●授業予定一覧：

- 1 自然観察とは
- 2 自然の見方
- 3 自然観察と五感
- 4 自然観察の服装、道具
- 5 野鳥の聞きなし
- 6 自然観察とフィールドマップ
- 7 雑木林の観察
- 8 水生昆虫・ホタルの観察
- 9 磯と干潟の生き物の観察
- 10 川の生き物の観察
- 11 雑木林の昆虫の観察
- 12 川原の野鳥と巣の観察
- 13 鳴く虫の観察
- 14 木の実の観察
- 15 まとめ
定期試験

●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

授業ののち、内容に関して学修への助言や参考図書等を適宜紹介する。それを参考に興味ある内容について理解を深める。レポート・試験では、それらをもとに多角的、発展的な知識や論述等を求める。付け焼き刃では対応できないので、毎回の授業を真剣に聞くとともに、十分な授業外学習をしてほしい。

【必携書（教科書販売）】

【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

<参考書等>

授業中に、適宜資料を配付する。必要に応じてプリントを配布する。

生物学Ⅱ

[担当者] 林 泰資
 [開講期] 1期
 [授業形態] 講義 [単位] 2
 [科目ナンバリング] 110M0-1234-o2

●本授業の概要：

人体の持つさまざまな機能は、その精緻な形態と構造の上に成り立っている。本講義では、人体の構成要素について、分子・細胞レベルから、組織、器官レベルまで、人体の機能メカニズムに関する理解を深める。また、疾病と治療について基礎知識を習得する。

●到達目標：

- ①学生は、生命体である人体機能を細胞から個体レベルまで説明できる。
- ②学生は、今後のカリキュラムにおいて、応用・臨床的な授業科目の理解に応用できる。

●成績評価の基準：

小テスト：20% (①)
 学期末試験：80% (①, ②)

●留意事項：

小テストは随時行う。教科書を熟読することを求める。
 オフィスアワー 火曜日9,10限

●実務経験の授業への活用方法：

●授業予定一覧：

1. イントロダクション
2. 内分泌のしくみ
3. 内分泌のしくみと病気
4. 消化器のしくみ
5. 消化器のしくみと病気
6. 呼吸器のしくみ
7. 呼吸器のしくみと病気
8. 泌尿器のしくみ
9. 泌尿器のしくみと病気
10. 生殖器のしくみ
11. 生殖器のしくみと病気
12. 脳・神経のしくみ
13. 脳・神経のしくみと病気
14. 感覚器のしくみ
15. 感覚器のしくみと病気
16. 学期末試験

●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

(予習) この授業では、manaba を利用します。可能な限り授業の前日までに、manaba を通じて授業スライド資料を閲覧し、全体の話の流れや疑問点などを把握した上で出席してください。

(復習) 授業中に配布する講義資料は穴埋め形式になっています。授業後に、manaba にアップしたスライド資料および教科書を参考に、講義資料を完成度の高いものに仕上げてください。授業内容の習得状況については、小テストで評価します。

【必携書（教科書販売）】

【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

<必携書>
 プリントを配布します。

科学史Ⅰ

[担当者] 九鬼 一人
 [開講期] 1期
 [授業形態] 講義 [単位] 2
 [科目ナンバリング] 110N0-1234-o2

●本授業の概要：

西欧の天文学史・物理学史を題材に、科学の発展と宗教との関係を考察します。それをつうじて幅広い教養を身につけ、表現力・思考力を培うことを目標とします(DPとの関連)。西欧においてキリスト教が、どのように近代科学を育んだかを知り、19世紀より前の科学史の知識を身につけます。授業では「観念体系」(検索しましょう)としての科学と宗教との相互関係について学びます。ということかと、[観念体系]として両者を考えれば、科学と宗教を同一水準のものとして理解できるのです。原則として教材はインターネットの掲示板で確認できるようにします。

●到達目標：

西欧において、科学の発展を促したのは、キリスト教の信仰であったことを把握できるようになります。西欧近代科学史においては、世界を探究することの目的は、父なる神による偉大な創造の意図を知ることであったとされました。つまり「前科学期」(19世紀より前の西欧科学)の科学は、宗教の手によって進められたのです。このような科学探究の動機を学びます。途中、動画による解説を交え、科学が苦手な人も興味をもって取り組めるよう配慮します。本科目によって、科学と宗教の関係について、主体的で基本的な問いかけができるようになります。それをつうじて、表現力・思考力を養えます。

●成績評価の基準：

- ・毎回の小レポート 35点
- ・期末試験 65点

(それ以外に宿題をボーナス点として加算する・毎回の小レポートは感想を重視する) 学説史の把握と共に(科学と宗教の関係についての)的確な質問ができるかを、評価で重視します。そのさいの表現力・思考力に留意します。

●留意事項：

教科書の代わりにプリント・コピーを刷って配布します。積極的に授業に臨むことが望ましいです。また manaba folio を活用するので、掲示板に注意してください(質問は掲示板・コレクションで受け付ける)。なおコレクションのコメントに対して、毎回「確認」の回答もしくは具体的な感想を書き込むことで小レポートに対するフィードバックが完結したものと見なします。全体についてはHP <http://kazuto-philunder.jp/> で予習してください。村上陽一郎の教科書と資料を持参するようにしてください。

●実務経験の授業への活用方法：

●授業予定一覧：

- パソコンを使う(wordを使う)・教科書(村上陽一郎「科学者とは何か」)は科学史を俯瞰するために用いる。資料(村上陽一郎「西欧近代科学(新版)」)のコピーは配布する。
1. 近代科学の前身
 - 神の目的の名のもとでの宇宙観 →教科書・資料
 - 参考文献: アリストテレス「天界について」[自然学]
 - 事前学修: 教科書の予習 事後学修: manaba の講評を復習
 2. 古代の天文学・天動説
 - プトレマイオスの体系
 - 天動説でも見かけの運動は説明できる →資料
 - 事前学修: 天動説と地動説の英訳を調べる 事後学修: manaba の講評を復習
 3. コペルニクスの意義
 - 数学的仮説ではない地動説
 - 地動説は天動説より一概に単純な体系とは言えない →資料
 - 参考文献: 資料の予習 「回転について」序文・教科書に対する異説も紹介
 - 事前学修: 資料の予習 事後学修: manaba の講評を復習
 4. コペルニクスの意義
 - 新プラトン主義の影響 →資料
 - 新プラトン主義の太陽崇拜 事後学修: manaba の講評を復習
 5. ケプラーと新天文学
 - 新プラトン主義の神秘主義 →資料
 - 事前学修: ケプラーの三法則とは何か 事後学修: manaba の講評を復習
 6. 古代の運動力学
 - アリストテレス自然学
 - 自然の本性に従って運動は「変化」する →資料
 - 参考文献: アリストテレス「自然学」
 - 事前学修: フィジクスとは何か 事後学修: manaba の講評を復習
 7. アリストテレス力学の変容
 - 数式が出てくるのであらかじめ予習されたい。
 - 中世の運動力学 →資料
 - 事前学修: 資料の数式に注意 事後学修: manaba の講評を復習
 8. ガリレオ・ガリレイ
 - 自然落下 →資料
 - 実証主義?? →資料
 - 事前学修: 思考実験とは何か 事後学修: manaba の講評を復習
 9. ガリレオ・ガリレイ
 - ガリレオの天体観測 →資料
 - 俗に、アリストテレス天文学に実証的反例を示した、と言われる →資料
 - 事前学修: HP をダウンロードすること 事後学修: manaba の講評を復習
 10. ガリレオ・ガリレイ
 - 月に関するガリレオのスケッチ
 - 正確か・不正確か議論は分かれる・最近の「星界の報告」研究の紹介
 - 事前学修: HP をダウンロードすること 事後学修: manaba の講評を復習
 11. プレヒトの戯曲を題材にしてガリレオ裁判の真相を知る
 - 参考書: プレヒト「ガリレイの生涯」
 - 事前学修: ガリレイの人となりの予習 事後学修: manaba の講評を復習
 12. ガリレオ・ガリレイによる新力学
 - 加速度について →資料
 - 事前学修: ガリレイの誤りについて 事後学修: manaba の講評を復習
 13. ニュートン力学の成立
 - ニュートンに消された男フック
 - ニュートン力学とケプラーの法則 →資料
 - 事前学修: 円運動の加速度を調べる 事後学修: manaba の講評を復習
 14. ニュートン力学の神学的前提
 - 対象の大きさのまま、把握する神・絶対空間
 - 事前学修: ニュートンの信仰について 事後学修: manaba の講評を復習
 15. 科学とキリスト教
 - まとめ(「モード1以前」の科学)
 - 科学の宗教からの分離 →教科書・資料
 - 事前学修: 教科書の予習 事後学修: manaba の講評を復習
- 期末試験(科学と宗教に関する空所補充・選択問題・的確な質問設定等)
 なお掲示板掲載のコレクション・まとめのファイルでフィードバックを行います。授業の初めに前回の復習をします。

●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

(予習) この授業では、manaba を利用します。可能な限り授業の前日までに、manaba を通じて授業に利用するプリントを閲覧し、全体の話の流れや疑問点などを把握した上で出席してください。(manaba は履修登録後の次の日から利用できるようになります。予習1時間が望ましい。)(復習) 配布したプリントの事項をできるだけ暗記して、次の授業に臨んでください。(復習2時間が望ましい。)(復習) 復習を次回に行います。また manaba のコレクションに記入されたコメントを閲覧し、反省材料としてください。回によっては勉強のすすめ等を課することがあります。とくに動画を多用するので、自習のさい利用されたい。なお天動説・地動説のさい、英文和訳を課す。

【必携書（教科書販売）】

「科学者とは何か」、村上陽一郎、新潮社

【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

科学史Ⅱ

[担当者] 九鬼 一人

[開講期] 2期

[授業形態] 講義 [単位] 2

[科目ナンバリング] 110N0-1234-o2

●本授業の概要：

科学の様式（モード）に留意し、科学がどのように社会の文脈に即して営まれているか、を考察します。それをつうじて幅広い教養を身につけ、表現力・思考力を培うことを目標とします（DPとの関連）。とくに科学が社会的な文脈のなかで、いかに営まれるべきか目に向けます。同時に19世紀以後の進化論とキリスト教との関係、原子力エネルギー開発史の知識を身につけます。授業では、宗教からの西欧近代科学の独立、そこから生まれた科学の社会的・倫理的な問題をともに考えてゆきます。原則として教材はインターネットの掲載版で確認できるようにします。

●到達目標：

科学に対する複眼的な見方を養うことができます。科学のあるべき姿について、自分なりに意見をまとめることができるようになります。また19世紀以降の科学（モード1・2の科学、モードとは科学の形態です。以下の*参照）が営まれる様式＝モードの変遷について知識を得られます。途中、動画による解説を交え、科学が苦手な人も興味をもって取り組めるよう配慮します。本科目によって、科学と社会の関係について、主体的で基本的な問いかけができるようになります。それをつうじて、表現力・思考力を養えます。
*モード1＝純粋科学の形態 *モード2＝スポンサーつきの科学・核物理学が典型

●成績評価の基準：

・毎回の小レポート 35点
・期末試験 65点
（それ以外に宿題をボーナス点として加算する・毎回の小レポートは感想を重視する）学説史の把握と共に（科学と社会の関係についての）的確な質問ができるかを、評価で重視します。そのさいの表現力・思考力に留意します。

●留意事項：

積極的に授業に臨むことが望ましい。またmanaba folioを活用するので、掲示板に注意してください（質問は掲示板・コレクションで受け付ける）。なおコレクションのコメントに対して、毎回「確認」の回答もしくは具体的感想を書き込むことで小レポートに対するフィードバックが完了したものと見なします。
全体についてはHP <http://kazuto-philunder.jp/> で予習してください。
村上陽一郎の教科書と資料とを持参するように。

●実務経験の授業への活用方法：

●授業予定一覧：

パソコンを使う（wordを使う）・教科書（村上陽一郎『科学者とは何か』）は科学史を俯瞰するため用いる。資料（村上陽一郎『西欧近代科学（新版）』）のコピーは配布する。

1. モード論（モード1としての進化論・モード2としての原子力エネルギー開発）
近代科学史概論 →教科書
事前学修:HPをダウンロードすること 事後学修:manabaの講評を復習
2. 進化論を準備したもの
歴史主義と呼ばれる世界観 →資料
事前学修:資料の予習 事後学修:manabaの講評を復習
3. 生物進化理論
ピーク号航海記前後 →資料
事前学修:資料の予習 事後学修:manabaの講評を復習
4. 広教会派の影響・ベリリーの自然神学の影響
科学と宗教は必ずしも対立しない
参考書:『ダーウィンの時代』名古屋大学出版会
事前学修:HPをダウンロードすること 事後学修:manabaの講評を復習
5. 広教会派による進化論批判
ウィルバーフォースの進化論批判的的を得ていた
参考書:『ダーウィンの時代』名古屋大学出版会
事前学修:進化論の限界とは何か 事後学修:manabaの講評を復習
6. 聖書と科学は対立するか
参考書:『OU科学史 宇宙の秩序・理性と信仰』創元社
事前学修:HPをダウンロードすること 事後学修:manabaの講評を復習
7. 聖書と科学は対立するか・アンソニーウェンからの挑戦
ネオダーウィニズム
参考書:『OU科学史 創造と進化』創元社
事前学修:HPをダウンロードすること 事後学修:manabaの講評を復習
8. 核物理学初歩:数式は極力控えます
原子核・核分裂・放射能の単位 →教科書
事前学修:素粒子とは何か 事後学修:manabaの講評を復習
9. 原爆開発をめぐる科学者の責任を考察できる
シラーの罪? →教科書
事前学修:シラーの人となり 事後学修:manabaの講評を復習
10. オッペンハイマーの生涯
参考書:『オッペンハイマーの生涯』核分裂連鎖反応/ロスアラモス
事前学修:原爆投下に至る道筋を調べる 事後学修:manabaの講評を復習
11. オッペンハイマーの生涯2
参考書:『オッペンハイマーの生涯』ロスアラモス/トリニティ、広島・長崎
事前学修:原爆投下の罪について 事後学修:manabaの講評を復習
12. フランクレポートを詳細に読む・英文和訳を課す
事前学修:英文を下記読みしてくる 事後学修:訳文の点検
13. 核軍縮運動と科学者
湯川の絶対悪・朝永の科学の原罪説→教科書
事前学修:原爆反対運動を調べてくる 事後学修:manabaの講評を復習
14. 原爆問題をめぐる小考察:ブレイン・ストーミング
twitter等、メディアを多面的に活用する
事前学修:HPをダウンロードすること 事後学修:manabaの講評を復習
15. モード2と関連して、ロゴス(数学)を用いた科学の営みを考える
:ビデオ観賞
事前学修:現代物理学の最前線を調べる 事後学修:manabaの講評を復習

期末試験(科学と社会に関する空所補充・選択問題・的確な質問設定等)
なお掲示板掲載のコレクション・まとめのファイルでフィードバックを行う。授業の初めに前回の復習をする。

●準備学習(予習・復習)に必要な学修内容：

(予習) この授業では、manabaを利用します。可能な限り授業の前日までに、manabaを通じて授業に利用するプリントを閲覧し、全体の話の流れや疑問点などを把握した上で出席してください。(manabaは履修登録後の次の日から利用できるようになります。予習1時間が望ましい)
(復習) 配布したプリントの事項をできるだけ暗記して、次の授業に臨んでください。(復習2時間が望ましい)次回に復習をします。またmanabaのコレクションに記入されたコメントを閲覧し、反省材料としてください。回によっては勉強のすすめ等を課すことがあります。
とくに動画を多用するので、自習のさい利用されたい。なおフランクレポートのさい、英文和訳を課す。

【必携書(教科書販売)】

『科学者とは何か』、村上陽一郎、新潮社

【必携書・参考書等(教科書販売以外)】

<参考書等>

- 松久俊男著『ダーウィンの時代』名古屋大学出版会
- 藤永茂著『ロバート・オッペンハイマー』朝日選書

医学Ⅰ

[担当者] 齋藤 信也

[開講期] 1期

[授業形態] 講義 [単位] 2

[科目ナンバリング] 110P0-1234-o2

●本授業の概要：

社会福祉分野専攻の学生にとっては、社会福祉士として働く際に専門職として必要な、人体の構造と機能及び疾病に関する知識を習得できる授業とする。

●到達目標：

- ① 心身機能と身体構造及び様々な疾病や障害の概要について、人の成長・発達や日常生活との関係を踏まえて理解できる。
- ② 国際生活機能分類(ICF)の基本的考え方と概要について理解できる。
- ③ リハビリテーションの概要について理解できる。
- ④ 医学の基礎知識について理解できる。

●成績評価の基準：

授業への取り組み度 40%

定期試験 60%

●留意事項：

●実務経験の授業への活用方法：

●授業予定一覧：

- 1 人の成長・発達 (1) 身体の成長・発達
- 2 人の成長・発達 (2) 精神の成長・発達
- 3 人の成長・発達 (3) 老化
- 4 身体構造と心身の機能 (1) 人体部位の名称
- 5 身体構造と心身の機能 (2) 各器官等の構造と機能
- 6 疾病の概要 (1) 生活習慣病と未病、悪性腫瘍、脳血管疾患、心疾患、高血圧、糖尿病と内分泌疾患
- 7 疾病の概要 (2) 呼吸器疾患、消化器疾患、血液疾患と膠原病、腎臓疾患、泌尿器系、疾患、骨・関節疾患
- 8 疾病の概要 (3) 目・耳の疾患、感染症、神経疾患と難病、先天性疾患、高齢者に多い疾患、終末期医療と緩和ケア
- 9 障害の概要 (1) 視覚障害、聴覚障害、平衡機能障害、肢体不自由、内部障害
- 10 障害の概要 (2) 知的障害、発達障害、認知症、高次機能障害、精神障害
- 11 リハビリテーションの概要
- 12 国際生活機能分類(ICF)の基本的考え方と概要 (1) 国際障害分類(ICIDH)から国際生活機能分類(ICF)への変遷
- 13 国際生活機能分類(ICF)の基本的考え方と概要 (2) 心身機能と身体構造、活動、参加の概念
- 14 健康の捉え方 (1) 健康の概念とプライマリ・ヘルス・ケア、人口統計、健康作り対策
- 15 健康の捉え方 (2) 感染症対策、産業保健、歯科保健、他
- 16 学期末試験

●準備学習(予習・復習)に必要な学修内容：

【必携書(教科書販売)】

『新・社会福祉士養成講座 第1巻 人体の構造と機能及び疾病』、福祉士養成講座編集委員会編、中央法規出版

【必携書・参考書等(教科書販売以外)】

医学Ⅰ（人体の構造と機能及び疾病）

〔担当者〕 齋藤 信也
 〔開講期〕 1期
 〔授業形態〕 講義 [単位] 2
 〔科目ナンバリング〕 110P0-1234-o2

●本授業の概要：

社会福祉分野専攻の学生にとっては、社会福祉士として働く際に専門職として必要な、人体の構造と機能及び疾病に関する知識を習得できる授業とする。

●到達目標：

- ① 心身機能と身体構造及び様々な疾病や障害の概要について、人の成長・発達や日常生活との関係を踏まえて理解できる。
- ② 国際生活機能分類(ICF)の基本的考え方と概要について理解できる。
- ③ リハビリテーションの概要について理解できる。
- ④ 医学の基礎知識について理解できる。

●成績評価の基準：

授業への取り組み度 40%
 定期試験 60%

●留意事項：

●実務経験の授業への活用方法：

●授業予定一覧：

- 1 人の成長・発達 (1) 身体の成長・発達
- 2 人の成長・発達 (2) 精神の成長・発達
- 3 人の成長・発達 (3) 老化
- 4 身体構造と心身の機能 (1) 人体部位の名称
- 5 身体構造と心身の機能 (2) 各器官等の構造と機能
- 6 疾病の概要 (1) 生活習慣病と未病, 悪性腫瘍, 脳血管疾患, 心疾患, 高血圧, 糖尿病と内分泌疾患
- 7 疾病の概要 (2) 呼吸器疾患, 消化器疾患, 血液疾患と膠原病, 腎臓疾患, 泌尿器系, 疾患, 骨・関節疾患
- 8 疾病の概要 (3) 目・耳の疾患, 感染症, 神経疾患と難病, 先天性疾患, 高齢者に多い疾患, 終末期医療と緩和ケア
- 9 障害の概要 (1) 視覚障害, 聴覚障害, 平衡機能障害, 肢体不自由, 内部障害
- 10 障害の概要 (2) 知的障害, 発達障害, 認知症, 高次機能障害, 精神障害
- 11 リハビリテーションの概要
- 12 国際生活機能分類(ICF)の基本的考え方と概要 (1) 国際障害分類(ICIDH)から国際生活機能分類(ICF)への変遷
- 13 国際生活機能分類(ICF)の基本的考え方と概要 (2) 心身機能と身体構造、活動、参加の概念
- 14 健康の捉え方 (1) 健康の概念とプライマリ・ヘルス・ケア, 人口統計, 健康作り対策
- 15 健康の捉え方 (2) 感染症対策, 産業保健, 歯科保健, 他
- 16 学期末試験

●準備学習(予習・復習)に必要な学修内容：

【必携書(教科書販売)】

『新・社会福祉士養成講座 第1巻 人体の構造と機能及び疾病』, 福祉士養成講座編集委員会編, 中央法規出版

【必携書・参考書等(教科書販売以外)】

医学Ⅱ

〔担当者〕 齋藤 信也
 〔開講期〕 2期
 〔授業形態〕 講義 [単位] 2
 〔科目ナンバリング〕 110P0-1234-o2

●本授業の概要：

超高齢社会を迎えたわが国において、日常生活を営む上で何らかの援助を必要とする人たちは増加してきている。家族の介護力が低下した現在、医療的ニーズに応えながら生活面のケアを提供する「医療福祉」分野への期待は高まっているが、一方で、医療福祉の現場で起る複雑でデリケートな問題の数々、特に倫理的ディレンマの解決に単一の回答を見いだすことは困難である。そこで、医療職と福祉職の職能的背景の違いも踏まえつつ、チーム・アプローチの中で、その解決試案を探ってゆく力を養えるような授業を行う。また、社会福祉系専攻以外の学生にとっても医学の基礎が理解できるような講義を心がけている。生命倫理、医療倫理に関する内容も相当程度含んでいる。

●到達目標：

1. 医療と福祉の違いと共通点が理解できる。
2. 医療職と福祉職の協働の必要性が理解できる。
3. 医療福祉という概念が説明できる。
4. 生命倫理、医療倫理、看護倫理について大まかに理解できる。
5. 医療福祉の現場で生じる倫理問題へのアプローチ法が理解できる。
6. 医療福祉の現場で生じる倫理問題の解決策について自分の言葉で語るができる。

●成績評価の基準：

授業への取り組み度 40%
 課題レポート 30%
 定期試験 30%

●留意事項：

●実務経験の授業への活用方法：

●授業予定一覧：

1. 生命倫理について
2. 医療倫理について
3. 医療福祉の場で起こる倫理問題について
4. ケアの倫理について
5. 医療福祉倫理事例の問題解決プロセス
6. 事例1 医療難民、事例2 個人情報保護
7. 事例3 ALS患者の人工呼吸器の装着、事例4 在宅医療と救急
8. 事例5 統合失調症患者とキーパーソン、事例6 在宅終末期医療
9. 事例7 認知症の独居高齢者、事例8 介護放棄
10. 事例9 利用者間のトラブル、事例10 終末期医療の決定
11. 事例11 医療ネグレクト、事例12 超低出生体重児と医療
12. 事例13 嚥下障害と胃ろう、事例14 予後の告知
13. 医療と福祉の関係
14. 医療福祉の専門職とその倫理綱領
15. 授業のまとめ
16. 試験

●準備学習(予習・復習)に必要な学修内容：

【必携書(教科書販売)】

ケースで学ぶ医療福祉の倫理, 菊井和子他, 医学書院

【必携書・参考書等(教科書販売以外)】

<必携書>
 未定

<参考書等>
 未定

心理学 I

[担当者] 平松 清志
 [開講期] 1期
 [授業形態] 講義 [単位] 2
 [科目ナンバリング] 11010-1234-o2

●本授業の概要：

人の心理学的理解、日常生活と心の健康、人の成長・発達と心理、心理的支援の方法と実際などの学習を通して、心理学の概要を理解する。

●到達目標：

科学としての心理学がどのような学問かを知るとともに、人間の心への興味と理解を深める。

●成績評価の基準：

担当ごとに試験またはレポート(80%)、小テスト等(20%)を実施し、多角的に評価する。

●留意事項：

オフィスアワー： 火曜日 9・10限

●実務経験の授業への活用方法：

特に12回～15回の講義において、担当者自身が臨床心理士として、スクールカウンセラーや大学内「清心こころの相談室」で実践してきた心理臨床経験を活用する。

●授業予定一覧：

人の心理学的理解、日常生活と心の健康<7回>

- 1 心理学とは、心理学の歴史
- 2 欲求・動機づけと行動、感情・情動
- 3 ストレス・適応
- 4 感覚・知覚・認知
- 5 学習・記憶・思考
- 6 心と脳・知能・創造性
- 7 人格・性格、集団

人の成長・発達と心理<4回>

- 8 乳幼児期
- 9 幼児期・児童期
- 10 思春期・青年期
- 11 成人期・老年期

心理的支援の方法と実際<4回>

- 12 心理検査の概要
- 13 心理療法(カウンセリング)・コンサルテーション・ソーシャルワーク
- 14 来談者中心療法・精神分析・行動療法・ピアカウンセリング
- 15 心理療法の概要と実際
- 16 定期試験

●準備学習(予習・復習)に必要な学修内容：

【必携書(教科書販売)】

【必携書・参考書等(教科書販売以外)】

<必携書>

随時推薦図書を紹介する

<参考書等>

随時推薦図書を紹介する。

心理学 I (心理学概論)

[担当者] 平松 清志
 [開講期] 1期
 [授業形態] 講義 [単位] 2
 [科目ナンバリング] 11010-1234-o2

●本授業の概要：

人の心理学的理解、日常生活と心の健康、人の成長・発達と心理、心理的支援の方法と実際などの学習を通して、心理学の概要を理解する。

●到達目標：

科学としての心理学がどのような学問かを知るとともに、人間の心への興味と理解を深める。

●成績評価の基準：

担当ごとに試験またはレポート(80%)、小テスト等(20%)を実施し、多角的に評価する。

●留意事項：

オフィスアワー： 火曜日 9・10限

●実務経験の授業への活用方法：

特に12回～15回の講義において、担当者自身が臨床心理士として、スクールカウンセラーや大学内「清心こころの相談室」で実践してきた心理臨床経験を活用する。

●授業予定一覧：

人の心理学的理解、日常生活と心の健康<7回>

- 1 心理学とは、心理学の歴史
- 2 欲求・動機づけと行動、感情・情動
- 3 ストレス・適応
- 4 感覚・知覚・認知
- 5 学習・記憶・思考
- 6 心と脳・知能・創造性
- 7 人格・性格、集団

人の成長・発達と心理<4回>

- 8 乳幼児期
- 9 幼児期・児童期
- 10 思春期・青年期
- 11 成人期・老年期

心理的支援の方法と実際<4回>

- 12 心理検査の概要
- 13 心理療法(カウンセリング)・コンサルテーション・ソーシャルワーク
- 14 来談者中心療法・精神分析・行動療法・ピアカウンセリング
- 15 心理療法の概要と実際
- 16 定期試験

●準備学習(予習・復習)に必要な学修内容：

【必携書(教科書販売)】

【必携書・参考書等(教科書販売以外)】

<必携書>

随時推薦図書を紹介する

<参考書等>

随時推薦図書を紹介する。